

12.産婦人科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者：堀 隆夫（産婦人科部長）

2. 期間：4週間、(必須) (2年目選択)

3. 目標

【一般目標 GIO】

産科婦人科の患者の特性、疾患の特性を理解し、暖かい心を持ってその診療にあたる態度を身につける。あらゆる年代の女性のすべての健康問題に関心を持ち、管理できる能力を身につける。

【個別目標 SBO's】

- a. 産婦人科診療に必要な基本的態度・技能（10例を経験する）
 - 1) 外陰部の診察、腔鏡診、内診（膣の触診と双手診）、膣直腸診ができる。
 - 2) 基本的検査（経膣・経腹超音波検査、CT、MRI）を活用し骨盤内の評価ができる。
 - 3) 子宮頸部細胞診を実施できる。
 - 4) 患者の羞恥心に配慮した慎重な態度がとれる。
- b. 下腹部痛、急性腹症の鑑別診断と初期診療（2,3例）
 - 1) 切迫流産、切迫早産などの産科救急疾患を診断し、治療できる。
 - 2) 卵巣嚢腫捻転、骨盤腹膜炎などの婦人科救急疾患を診断し、治療できる。
- c. 女性特有のプライマリケアー（4,5例）
 - 1) 性器炎症（外陰炎、膣炎、骨盤内感染）を診断し、治療できる。
 - 2) 性行為感染症（STD）として、クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマを診断できる。
 - 3) 加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、月経異常、更年期障害を診断できる。
 - 4) 月経異常の治療、ホルモン補充療法、低用量ピル療法を説明できる。
- d. 妊産褥婦ならびに新生児の医療（4,5例）
 - 1) 妊婦健診において、エコーによる胎児推定体重、胎盤位置、羊水量などを評価でき、正常妊娠の診断と経過観察ができる。
 - 2) 胎児心拍モニタリング（NST）を行い、評価できる。
 - 3) 妊婦、褥婦に対する投薬の問題、治療や検査する上での制限を述べることができる。
 - 4) 夜間であっても分娩に立会い、積極的に母児の状態、分娩介助、胎盤の娩出処置を見学する。
 - 5) 基本的な周産期管理が行える。
- e. 婦人科良性腫瘍の診断。（4,5例）
 - 1) 超音波検査を行い、子宮、卵巣を描出でき、子宮筋腫、卵巣嚢腫などを診断できる。
 - 2) 子宮腔部細胞診クラス分類を評価でき、患者の定期検診指導ができる。
- f. 産科・婦人科手術（4,5例）
 - 1) 帝王切開術の適応と手術手技を述べることができる。

- 2) 婦人科手術(子宮全摘出術、卵巣腫瘍摘出術など)の概略を述べることができる。
- 3) 基本的な術後管理が行える。

g. 子宮内掻爬術(4,5 例)

- 1) 流産の原因、流産率、流産手術の適応と合併症につき述べるができる。
- 2) 次回妊娠に向けての保健指導が行える。
- 3) 人工妊娠中絶術の適応と合併症を述べるができる。
- 4) 中絶理由を聴取し、術後の避妊を含めた保健指導が行える。

4. 方略 LS

LS1 (OJT)

- 1) 週 4 回外来に参加する。
- 2) 子宮癌検診、膣鏡診、内診、超音波検査を経験する。
- 3) 病棟において、入院患者を受け持ち、分娩、帝王切開術、婦人科手術、子宮内掻爬術に立会う。
- 4) 分娩、婦人科救急疾患では、夜間、休日のオンコールに積極的に参加する。

週間スケジュール表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診
午後	手術 カンファレンス	病棟回診	手術	病棟回診	病棟回診	病棟回診

LS2(勉強会・カンファレンス)

カンファレンスでは、受け持ち患者につき症例提示する。特に、術前患者のリスク評価、外来者の中で注目すべき事項を説明する。

カンファレンスに続いて、最近の問題症例に関する原著論文を読み、それを解説する。

5. 評価 EV

通常は外来、病棟回診、手術、分娩に際して、指導医により形成的評価が行われるが、チームスタッフの評価も反映される。ローテーション終了時に自己評価および指導医による評価が行われ EPOC に記録される。

6. その他

産婦人科の実際の診察手技が痛みを伴い、羞恥心を助長する可能性があるため、指導が難しいことがある。内診に限らず、外来ではあらゆる場面でクレームにつながり得るが、プライバシーを守り、声かけして行うことに配慮して臨めばよい。